



とうきょうすくわくプロジェクト活動レポート(2回目・2歳児)

「自然あそび」から広がる“ふしぎ”と“やってみたい”

2歳児 第2回「雨の日の散歩を楽しむ」

子どもたちの「雨ってどこからくるの?」というつぶやきから始まった、“雨の日の探究”。今回は、身近な自然を通して感性を育む「とうきょうすくわくプロジェクト」の一環として、雨の日ならではの発見と遊びを楽しむ活動が行われました。



活動のテーマ:雨の日の散歩を楽しむ

雨の日でも、子どもたちにとっては新しい世界が広がる日。長靴を履いて、レインコートをもとって出発した散歩先には、水たまり、濡れた葉っぱ、しずくの音、光る地面……五感をくすぐる“雨の景色”が待っていました。

準備と環境づくり

活動に向けて用意されたのは、長靴・レインコート・水たまりのある公園。

先生たちは「雨の日だからこそ感じられる自然」に出会えるよう、安全に観察・あそびができる環境を整えました。

活動の内容

- ・雨の中の散歩を楽しむ。
- ・晴れている日と雨の日の散歩の違いに気が付く。
- ・水溜まりで遊ぶ。
- ・雨の日ならではの動植物の観察をする。

子どもたちの姿から見えた“感じる力”

「雨ってどこから来るのかな?」「上からだよ」「お空からだね!」空を見上げる瞳に、子どもたちの探究心がきらり。雨の色を尋ねると、「白」「黒」「わからない」など、一人ひとりが自分の感性で“雨の世界”を感じ取っていました。水たまりに足を踏み入れては「ちゃぷちゃぷ」「ぴちゃっ」と笑い声。泥の感触を手で確かめたり、葉っぱや石を浮かべたりと、全身で“雨とあそぶ”姿が見られました。

「冷たいね」「気持ちいいね」「キラキラしてる!」レインコート越しに感じた雨の冷たさ、濡れた地面の輝き。子どもたちは自然とことばを交わしながら、五感を通じて「感じる喜び」を表現していました。



先生たちのふり返り

- ・雨が冷たいことや音がすること、空から降ってきていることなど実際に体験する事で子どもたち自身で気が付くことができた。
- ・事前に長靴や雨がでてくる歌を取り入れていたことで、散歩中も歌をうたったり「長靴だね」「くまさんいるかな」と楽しみにすることができた。
- ・散歩に行く前に雨やカタツムリ、水溜まりなどがでてくる絵本や紙芝居を取り入れても良かった。
- ・子どもたち自身が泥を混ぜてみたり、葉っぱを浮かべたりなど様々な遊びを考えて遊ぶ姿が見られた。

雨が教えてくれた“発見の時間”

濡れた葉っぱのきらめき、水の音、泥の匂い。どれも子どもたちにとって“生きた教材”でした。この活動は、「遊び」と「学び」が寄り添う“探究保育”のやさしいかたち。雨の中で見つけた小さな発見が、子どもたち一人ひとりの「感じる力」を大きく育てています。